



勝ち組! オンライン営業

荏原

ポンプ大手の荏原は、主力製品で国内シェア1位の標準ポンプを対象に、クラウドを活用したメンテナンスサービスを2022年10月に始めた。自社開発の小型センサーをポンプに取り付け、振動と温度のデータを収集・分析して異常を検知できる。ベテランの退職による保全人員の不足など顧客の課題を解決するほか、自社のメンテナンスビジネスの拡大につなげる。

標準ポンプはビルや商業施設、工場の給排水などに活用されている。高所や地下にも設置されており、人手による点検は手間がかかる。ベテランの退職により人手不足や技能伝承が課題だ。保全が行き届かずポンプが突然壊れれば、断水が起き、顧客への影響は大きい。

センサーはペットボトルのキャップ並みに小さく、狭い場所のポンプにも設置できる。送風機にも対応す

ポンプ保守にクラウド

る。振動と温度のデータを収集・分析し、設定した値を超えるとメールで通知する。顧客が異常に気づき、壊れる前に対策を取れる。

特徴は自社製品以外にも対応していることだ。顧客は荏原を含め各社のポンプなどを使っている。顧客が今回のサービスを利用することで、「他社製品のメンテも請け負う」（小野文志標準ポンプ事業部国内営業推進部スマートソリューション課長）効果が期待できる。

他社製品のメンテは現状もあるが、件数は少なかった。今回のサービスを機に他社製品のメンテを拡大し、他社製品の更新時期に、サービスの利便性により自社製品に乗り換えてもらうことを狙う。遠隔のメン



ポンプの振動と温度を収集・分析して異常を検知する

テが営業ツールにもなり得る。

サービス自体のビジネスも期待できる。センサーの台数に応じて利用料金を受け取る仕組みで、自社製品の顧客の利用が広がれば新たな収益源になる。10年後には数十万台にセンサーを設置する目標だ。サービスが自社の巡回人員の代わりになるため、彼らを別の付加価値の高い業務に充てる効果も期待できる。

（戸村智幸）